

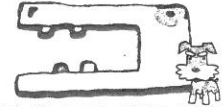
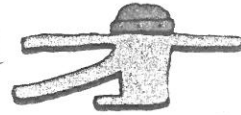
2020(令和2)年  
10月10日  
土曜日

# 南日本新聞



大人も、子どもも  
みんなで読もう!

南日本子ども新聞



鹿屋市のゆるキャラでバラの妖精「ばらちゃん」と、妖怪「アマビエ」が仲良さそうに手をつないでいる芝生絵の記事が目にとまった。「手をつないで笑える日が来るように」と、新型コロナウイルス感染症の収束を願って制作されたそうだ。私はこの二つの異なる存在に、そもそも興味を持っていた。ゆるキャラは昨年の自由研究で調べた。「アマビエ」は、今年の研究として、新型コロナウイルスの収束を願う鹿児島県内の神社50カ所を巡る中で知った。「アマビエ」は江戸時代、肥後国の海に現れたという。「病が流行したら早々に私の姿を写し、人々に見せなさい



小掠 有紀さん  
西伊敷小6年

(鹿児島市)



芝生にアマビエ出現  
鹿屋・森島ヶ丘公園

鹿児島市森島ヶ丘公園にアマビエとばらちゃん(左)が手を取りほほ笑む芝生絵。一鹿屋市の森島ヶ丘公園

9月7日 13面

## 手をつなげる日願って

妖精と妖怪が仲良くする姿から、世界中の紛争や対立の原因に思いを巡らせる小掠さんはすごいと思います。身近なところでは、新型コロナウイルス感染者への差別が問題となっていますね。相手の立場になって考えてみることも大事です。ばらちゃんやアマビエのように、仲良く笑顔で日々を過ごしたいですね。  
(鹿屋総局・成尾由理香)

記者からひとこと

「などと言いつて、海中へと入っていったと伝えられ、疫病を鎮める妖怪として信仰されている。」  
妖精と妖怪が手をつなぐ様子を見て、今の社会が目指すべき姿だと私は感じた。自分と違うものを排除しようとするところが、世界全体の対立・紛争を生み出しているように思う。全ての人がお互いの価値観を認め、共生する世界になってほしい。日本ではコロナ下の「新しい生活様式」が定着しつつある。今はまだ人と人が距離を取りながら生活しなければならぬのが難しいが、いつかみんなが芝生絵のように手をつなげるようになればいいなと思った。



オセモコ特派員に最近の新聞で気になった記事について、感想や意見を書いてもらいます。